

529ヘクタールの水源の森からのホットな情報発信

第105号

2012年 6月

やどりき水源林ニュース

発行（公財）かながわトラストみどり財団 編集 NPO 法人かながわ森林インストラクターの会
 220-0073 横浜市西区岡野2-12-20 神奈川県横浜西合同庁舎内
 045-412-2255 <http://www.ktm.or.jp> E-mail:midori@ktm.or.jp

定例観察会のお知らせ（費用等負担はありません）

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO 法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。なお、冬季（12月・1月・2月）は安全確保のため休止します。

初夏の水源林を彩るウツギ



マルバウツギ



バイカウツギ



ニシキウツギ



コゴメウツギ



ガクウツギ

ウツギと名のつく植物は沢山ありますが、水源林では11種ほどを見ることができます。

4月からヒメウツギ等が咲き始め、新緑とともに山を彩ります。

6月には、『卯の花』と歌に歌われるウツギが咲きます。



植物班が命名の2代目マザーツリー

松岳雨山稜線のブナ調査(植物班)
 丹沢のブナは斜面地に生育していて、1980年代に立枯れが目立つようになりました。衰退は、大気汚染の影響、病害虫や土壌の乾燥化など複合的な要因と考えられています。

育成最下限は、寄～松岳作業用モノレール周辺では895m、雨山峠下部では900m付近で確認されています。

ブナハバチの食害による枯死も心配されます。実生や稚樹は見当たらず、写真は沢沿いに運ばれた種子から芽生えた実生（子葉と本葉）です。



ウツギ

万葉集卷十一 九四二

作者未詳

咲き散る丘に葛引く娘くす子おとめ

ほととぎす
 霍公鳥鳴く声聞くや卯の花の

春に花を咲かせた樹木は今



アブラチャン



ウワミズザクラ



オニシバリ



キブシ



クロモジ



サンショウ



ニワトコ



ハナイカダ



フサザクラ



ミツバウツギ



ミツマタ



ヤブムラサキ

樹木は、花、果実、紅葉、冬芽、樹形、木肌など年間を通して見どころが多いです。早春から花が咲いた樹木は、もう若い果実を作っています。どれも目立たない色をしています。熟す頃には種子を遠くへ運ぶための様々な工夫がされた果実になります。これからどう変化していくのか気をつけて見ていきたいと思えます。

季節を変えて樹木を観察すると自然の仕組みの素晴らしさが発見できて感動を与えてくれることでしょう。



左の写真は石にへばり付くように咲いていたハンショウツルです。

草のように見えますが、つる性の落葉低木です。

いつもありがとうございます



寄駐在所の警察官に管理棟前でお会いしました。職務中でしたが、少しお話を伺いました。

松田警察署の署員で、山岳救助隊員でもあり、寄駐在所に居住して勤務されているそうです。事件や事故がなければ、毎日1回水源林まで来られて、登山届の回収や、ゲート前や橋の向こう側の駐車スペースに止めてある車のナンバーを記録して、万一の事故に備えていらっしゃるそうです。以前は車上荒らしが時々あったようですが、最近はなくなったそうです。職務とは言え、登山者や水源林を訪れる人達の安全を見えないところで支えてくださっていることを知り、ありがたいと思えました。



6月のトピックス

間もなくやってくる梅雨。憂鬱なようでもありますが、恵みの雨でもあります。水源林に降った雨は、地面にしみ込んで時間をかけて地下水となり、沢や川に流れ出て私たちの生活に欠かせない水道水になります。ウツギ、ウリノキの花や、小鳥、カジカガエルの鳴き声を楽しみに是非お出かけください。

7月の水源林

梅雨が明けると夏本番。水源林は市街地に比べて気温が2~3度低く、風も涼しいです。「森の案内人」では、例年好評の夏の特別メニュー、「水の中の生き物を探そう」を7~8月の子どもたちが夏休み中におこないます。沢に入る履物と水筒と帽子などを用意して参加してください。